

ねじりはちまき

9月1日は『防災の日』です。東日本大震災を経て、いつか起こるであろう災害に備えている方が多いのではないのでしょうか。政府広報オンラインのホームページでは防災、減災対策が様々掲載されています。その一つに、『命を守る一人ひとりの防災対策』という項目を見ました。家の中の安全対策のポイントは？という記事に、大地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考えて防災対策を講じておく必要があると記載されています。タンスや食器棚、本棚などの大きな家具の下敷きになると大けが、命の危険まで及びます。家具を固定する器具で対策をしておくと危険から身を守る一助になります。ぜひ、この防災週間をきっかけに備蓄の見直しや、確認をしてみてはいかがでしょうか。まだまだ残暑が続きますので、体調など崩されませんように。

有限会社 幸田建設

<会社近況>

ただいま、郡山市の現場をお世話になっております。

駐車場舗装工事、建植、看板工事、工場屋根、外壁等修繕工事、トイレ便器交換工事他を施工中です。

<9月 旬のもの> ごま

ごまの旬は9月～10月だそうで、国内で食べられているほとんどのごまが輸入品だそうです。肉厚で表面がふっくらしているものが、良質のようです。ごまに含まれている栄養素のリグナンが抗酸化物質として働き、活性酸素の生成を抑えたり、肝機能を強化する作用があるそうです。積極的に料理にふりかけたり、取り入れると体にも良さそうな気がします。



<お家のお手入れ> 秋編

- ・窓、網戸の掃除・・・ホコリや手垢なども水温、気温が高いため落ちやすい
- ・サッシ・・・虫や砂ぼこりなどの洗浄
- ・エアコンフィルター・・・フィルターを外し、ほこりを取り除く
- ・換気扇の掃除・・・油汚れ、わたゴミの付着を洗浄
- ・大物の洗濯・・・カーテン、ラグマットなど普段乾きにくいもののお洗濯
- ・クローゼット、押入れの整理・・・カビ、汚れ拭き取り、換気、乾燥

これらのお手入れで、年末の大掃除の手助けになりますし、なによりスッキリ過ごせます。

令和7年9月5日発行

<発行責任者>幸田久美

有限会社 幸田建設

969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>9月になっても暑さが残っていますね。年々、季節がずれている気がします。お月見や、秋のお祭りなどがなくならないように受け継いでいきたいですね。（ほしの）

日本人と木について

我が家の屋敷内には結構いろんな種類の木がある。緑に囲まれて過ごすのは心休まるし、花を咲かせるものもあって眼を楽しませてくれる。また美味しい果実を提供してくれるものもある。その一方、木の剪定にはそれなりに時間を避けることにもなり、中にはかなりの樹齢になっているものもあって、その扱いをどうしたものかと思案しているものもある。そんな折、「木とともに暮らし、文化を育んできた日本人」というテーマでの対談ものを読む機会があった。解説者は、東京大学大学院准教授の海野聡氏である。小生の関心のあるところを抜粋して紹介してみたい。この稿では字数の関係で中途半端になってしまうかもしれないが、その点はお許し願いたいと思う。

1.日本の伝統建築は木の文化の象徴

- ①日本の建築は、柱や梁などの構造材はもちろんのこと、扉や板壁、檜皮葺や板葺のような屋根の葺材まで植物性の材料が使われている。特に住宅では、建具に紙を貼った明障子を用いることが多く、「日本の伝統建築は木と紙でできている」と揶揄されることもある。日本の伝統建築は、まさに木の文化の象徴的存在と言っていいわけだが、その他にも船や家具などの大型のものから農耕具、桶などにも木が使われ、日本は木とともにある国だといえる。
- ②日本でも20世紀以降、鉄やガラス、コンクリート、プラスチックで造られた物が溢れるようになり、森林の恵みを感じる事が少なくなっている。しかし、日本人の生活の中には依然として木が浸透している。現在も、低層の戸建住宅の8割以上は木造であり、木の存在感を強調した現代建築も少なくない。身の周りにも、箸や碗などの木製のものがたくさんある。机や椅子などの家具も木製のものが多く、桐の箆笥はちょっと珍しくなったが、檜風呂、杉の曲げわっぱの弁当箱などは今でも根強い人気がある。さらに、木製のメガネフレームを使う人もいたりして、木を使った品々が生活に根付いている。
- ③容易に手に入る豊かな森林資源に囲まれた環境を通して、巧みな木材利用の技術が発達し、優れた木の文化を育んできたのが日本なのである。それと日本人の感性という点からいうと、春にはサクラ、秋にはモミジと、木々が告げる季節の移ろいを愛でる。言葉を見ても、ちぐはぐな状態を「木に竹を接ぐ」と言ったり、ハレの舞台を「檜舞台」と言ったりするように、木々は単なる物質的な存在であることを超えて生活に溶け込んでいる。また、森林で生きる動植物、落葉や山菜に至るまでその恵みを享受しているだけでなく、森林は保水や防風、気象緩和機能など、人間に適した環境を構築する一翼も担っており、目に見えない恩恵に計り知れないものがある。

2.樹木に対する畏敬の念・神社に見る木への信仰

- ①日本では、特定の木を信仰の対象（御神木）とすることも多いが、自然信仰との関係も深いものがある。古代信仰では、祖霊神のほかに、大神（おおみわ）神社の御神体が三輪山であるように、自然物を神格化することもあるし、山や川、巨石はもとより、動物、植物、さらには雨、風、雷などの自然現象までもが対象となり、木もその中に含まれる。また木には、依り代（しろ）として霊が宿り、木自体も神聖性を帯びているとされ、特に巨木に神々しさや超越的な生命力を感じ取っていた。樹木に対する畏敬の念は、神の数え方にも現れていて、「一柱（ひとはしら）」、「二柱（ふたはしら）」と柱を助数詞としている。これなどは、巨木と同じく柱は神の宿る「依り代」であり、とりわけ重要なものだったことを意味している。
- ②柱の神秘性が顕著に現れているのが、日本を代表する神社である伊勢神宮である。一般に人は見るできないが、伊勢神宮の正殿の中心には、心御柱（しんのみはしら）という最も重要な柱が立っている。伊勢神宮では20年に一度、隣に敷地を移し

て社殿を建て替える式年遷宮が行われ、その際、古い社殿はすべて解体されて各地に下賜される。古殿地には心御柱を守るための覆屋が掛けられ、次回の遷宮まで引き継がれる。ここに人々の木に込めた強い精神性が表れているといえる。

- ③また、出雲大社（島根県出雲市）でも木への信仰が見られる。出雲大社本殿は、大社造という古式な神社本殿の形を現在に伝えていて、本殿も八丈（約24m）という破格の高さを持っている。この本殿の高さも時代を遡れば（中古時代さらには上古時代）現在の倍以上あったことが伝えられている。それと出雲大社と同じく巨木信仰と関係が深いのが、諏訪大社（長野県諏訪市）の「御柱祭（おんばしらまつり）」である。寅年・申年の6年ごと（数え年では7年ごと）に行われる祭りで、この時には、諏訪大社上社本宮、前宮、下社秋宮、春宮に、それぞれ4本、計16本のモミの大木を伐り出し、曳行（えいこう）して立柱（りっちゅう）する。この御柱祭では、伐採、曳行、立柱のいずれの過程においても、巨木であるがゆえの運搬や施工に苦勞がにじみ出ていると同時に、その苦勞を厭わぬ巨木に対する畏敬の念が溢れていると言える。

4. 木の文化継承の要となる長期的な計画による森林の育成

森林資源のなかでも、大径長大材を育む豊かな森林は、一朝一夕に形成されるものでなく、世代を超えた長期のわたる森林管理の対応が求められる。伊勢神宮の式年遷宮に限らず、現存するたくさんの歴史的建造物の修理においても、大径長大材が必要であるため、こうした木の文化を継承していく要となるのは、長期的な計画に基づいた森林の育成であり、それが必要不可欠である。伊勢神宮の式年遷宮（檜の大径長大木が一万本以上必要とする）を持続可能なものとしている森林育成に学ぶべきである。

5. 最後に～21世紀を展望して考えること

- ①21世紀の社会は、これまでとは大きく異なる新時代の入り口に立っていると思う。特に日本では、高度経済成長期以降、ものが溢れ、人々は物質的には満たされつつあるが、今は逆に物質中心主義を脱し、量から質へ、あるいは精神的な豊かさを求める意識に変化してきている。もちろん物質や利便性への欲求がなくなったわけではないが、物質の先に価値を見出そうとする動きが加速しており、その身近な例としては、原材料の調達から生産、流通、そして消費に至るまでの過程を追跡できる仕組み、トレーサビリティや環境負荷に対する意識の高まりがあげられる。
- ②木材の質や価値に関して言えば、木のぬくもりを求める心は今も受け継がれているし、また、樹種や産地、あるいは木目に対するこだわりなどもあって、それは洗練された木の文化の象徴として、現代の日本でも高く評価されている。ここに、再生可能な素材という利点を加えることで、木とともに未来が見えてくると思う。幸いにして、日本には、豊かな森林が残っており、「木質を愛する」伝統的文化もあるので、それらを両輪にして大事にしていくことが肝心であると考えます。

いかがだったでしょうか。今回はこれで終了とします。

新潟焼山

【今回登った山の概要】（百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、カッコ内の数字は標高。上、2 段目、下、左、右などは写真の位置。「日本三百名山」には百名山、二百名山、三百名山が含まれる。）

・新潟焼山（○ やけやま 2400m）

新潟県西部、糸魚川市と妙高市にまたがる。頸城（くびき）山群に位置する常時観測火山で妙高山（百 2454m）、火打山（百 2462m）とともに「頸城三山」と呼ばれている。火山活動に伴ってたびたび入山規制が行われており、直近では山頂から半径 1 km 以内の入山規制は 2018 年 11 月に解除された。

新潟県の条例により事前に登山届の提出が義務付けられている。

登山口は幾つかあるが、今回は焼山の北、笹倉温泉側から登る。昨年から登山口手前の林道の土砂崩れで通行止めになっていた。

8 月 1 日に糸魚川市役所に電話したら、林道焼山線の整備が終わり、翌 2 日（土）から平常の状態（※）になるとのことだった。

（※）林道焼山線：河川の砂防工事のため一般車両の通行が規制されており、第一ゲートは 6～10 月の土・日・祝日のみ開放。連続する日の初日の午前 6 時に開放し、連続する日の最終日の午後 5 に閉鎖。第二ゲートは常時閉鎖。第一と第二のゲート間の距離は 1.7 km。

天気が不安定な日が続いていたが、焼山の天気予報は 9 日（土）が良かった。土曜日には他の登山者も登るだろうとの期待もある。当方は単独なので一緒になくても他に登山者がいると安心だ。

8 月 8 日（金）

自宅を 9 時出発、糸魚川市の笹倉温泉を目指す。東北道本宮 IC～北陸道能生 IC で降り、海沿いの国道 8 号から内陸に向かう新潟県道 270 号を経由する。コンビニで買い物し 14 時前笹倉温泉着（※）（下左）。龍雲荘の駐車場に小さな登山ポストがあり登山届を投函する（下右）。

（※）笹倉温泉：2023 年 4 月残雪期の猿ヶ馬場山登山の帰途下見をした。積雪のため第一ゲートまでは行けなかった。



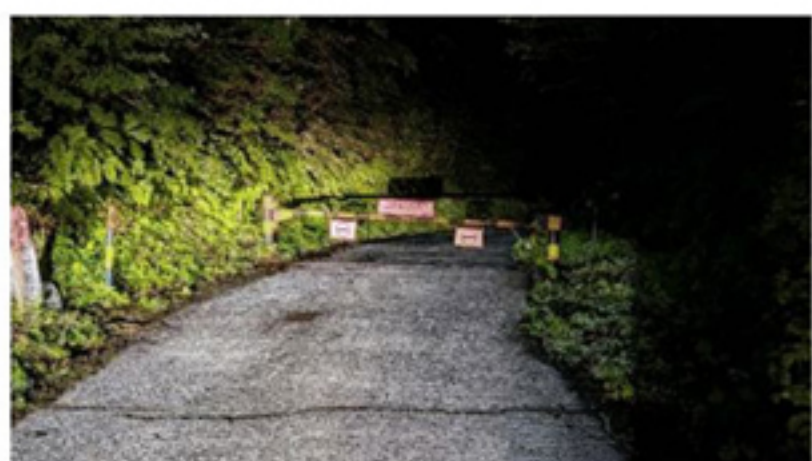
笹倉温泉から先に進み、ゆのかわうちキャンプ場入口を左に見て焼山林道を進み第一ゲート 14:15 着 (上2枚)。路面が濡れていた。ここで車中泊する。



後方は一段高く平らになっていてテントを張れるようだ (2段目左)。寝る準備をして 16 時過ぎ食事を始める (2段目右)。缶ビールは 1 本だけ持ってきた。19 時くらいには就寝したようだ。

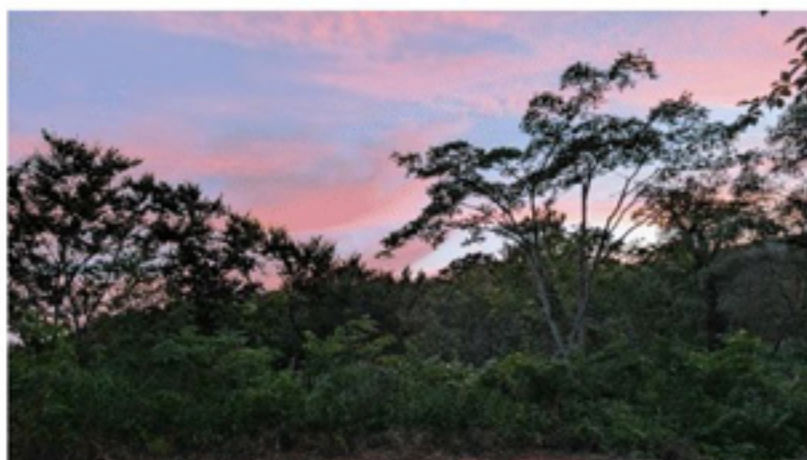


夜中 3 時半頃目覚めたら、星が瞬いていた。すると軽トラックがやって来てゲートの鍵を開けて先に走って行った。夜中に何の仕事だろうと思っていたら 4 時頃引き返してきて停まりもせず下って行った。「何これ？ ゲートは 6 時に開放ではないの？」と思った。しばらく様子を見ていたが状況は変わらない。急いで準備し 4:20 第一ゲートを通り 8 分で第 2 ゲートに着く (下左)。このゲートは締め切りだ。ここから登山口までは歩く。簡易トイレが朝日で染まっている (下右)。



4:50、朝焼けがきれいだ (次頁上左)。

5:05 ゲートの脇を抜けて出発。気持



の良い林道歩き（上右）。

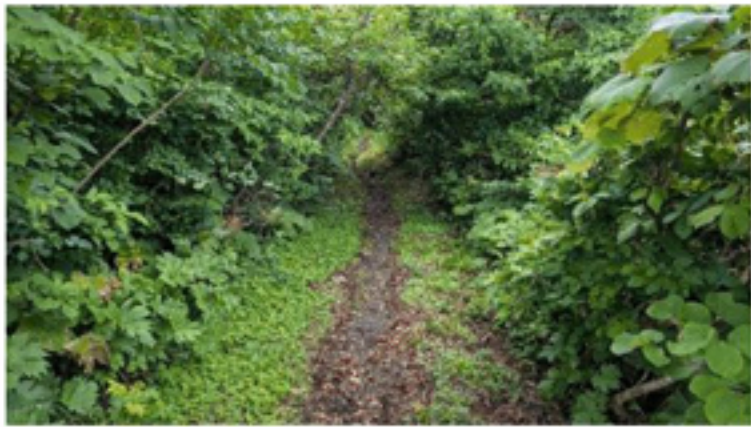
進行方向右手にドーム状の山が見えてきた。これが焼山か？（2段目左）。
林道の分岐には「←焼山登山道」の標柱が立っている（2段目右）。1時間10分程
で大きなU字溝の形の避難用シェルターに着く（3段目左）。シェルター内に「登
山道入り口」の表示があった（3段目右）。



奥にヘルメットがあった（下左）。シェ
ルターの先右側に「焼山登山道入り口」の標識があり、ようやく登山を開始する
（6:20、下右）。



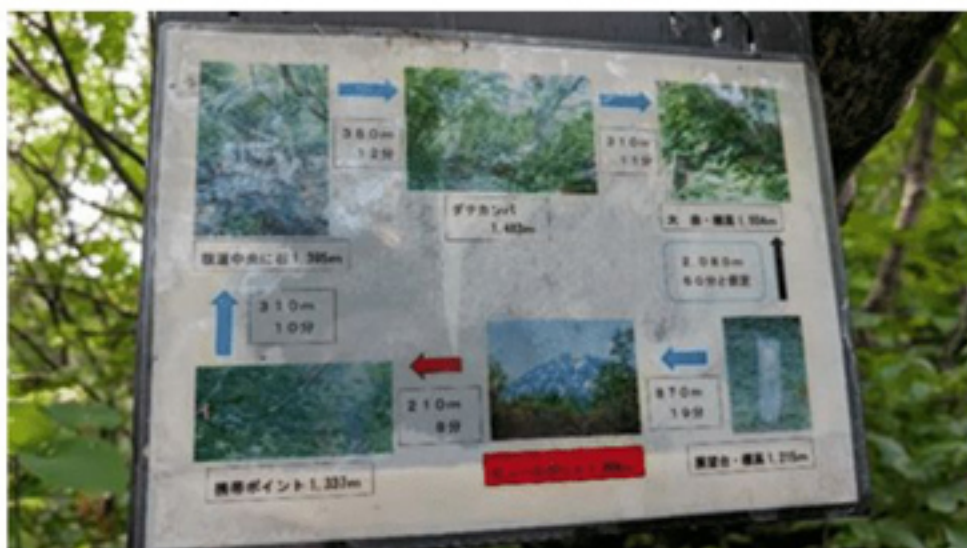
登山道はよく整備されていて足元だけでなく枝なども刈払われている、快適だ（上）。



登山道入り口から20数分歩いたところの「展望台」から焼山の雄姿（写真中央）を堪能する（2段目）。



3 段目写真右端の焼山に連なる左手奥中央の姿の良い山が頸城山塊最高峰火打山（百 2462m）か（3 段目）？



展望台 (1215m) から大曲 (1554m) に至る山道をいくつかのポイントに分けて案内している写真の看板（下）。助かる。

ダケカンバの枝張りが面白い（上）。



大曲 7:58 着（2 段目）。刈払われて小さな広場になっている。ソーラーパネルと地震観測器（？）が設置されている。コンビニおにぎりを食べる。休んでいると、若い男女のペアが登ってきた。富山の人だった。自分よりもかなり速いペースだ。ここもビュースポットだ（3 段目）。大きな谷の筋が見える。火砕流の跡か？これから渉ることになる「大谷」と「地獄谷」はどれか？



富山の人達が先に出発し自分は 8:30 大曲発。途中で若者数人が追いついていく。火山調査の台湾の人らしい。



9:10 大谷着。深い谷の対岸上部を先行の若者が登っている（下左）。自分はロープにつかまりながら慎重に下りる。谷底には雪が残っていた。雪溪の幅は 10m 位（下右）。

慎重に渡る。対岸にはロープや梯子があるが、足元崩れやすく落石してしまう。後続の若者に声をかける。

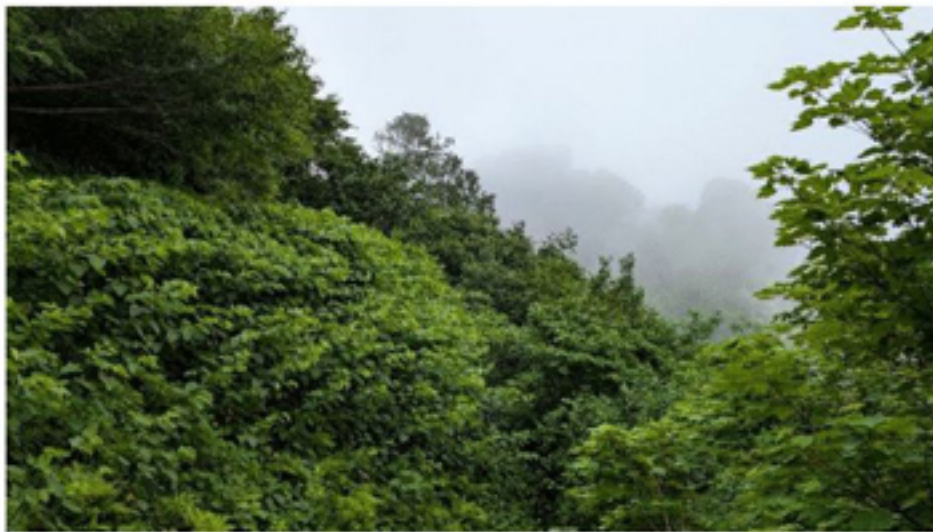


15 分かかって渡り、登り切った所に標識があった（上）。

続いて 20 分弱の所にある赤テープが地獄谷の表示で、ロープを使い慎重に下る（2 段目左）。大谷より狭い雪渓を少し登り。対岸に渡る（2 段目中、右）。



谷の上部に見えるのは山頂部の大岩らしい。ガスがかかってきた。薄っすらと見えているのは「坊坊抱岩（ぼぼだきいわ）」の溶岩壁か（3 段目左）？紅葉した枝があった（3 段目右）。



水無谷の左岸の道を登り（下右）、富士見峠着 11:07（下左）。

左に登ると焼山山頂、右に登ると金山方面（前頁下左）。

休憩し 11:25 発。樹林の切れたところから山頂方向を望む（上）。



泊岩（岩窟避難小屋）は気づかずに見過ごしてしまった。
広葉樹林帯を抜けると視界が開け、振り返る（2段目）。南方向金山（2245m）方面か？



砂礫の急斜面は崩れ易く登りづらい。山頂直下の大きな岩の下方（3段目）で、「大曲」で先行した富山のペアが下りてきた。山頂まであとどのくらいかを聞いたなら「30分位」との返答だった。大きな岩の右手に進むと教えてくれた。寒さを感じたのでカッパの上着を羽織る。既に歩き始めてから7時間以上経過している。少し焦ってきた。暗くなる前に山を下り、林道に達したい。



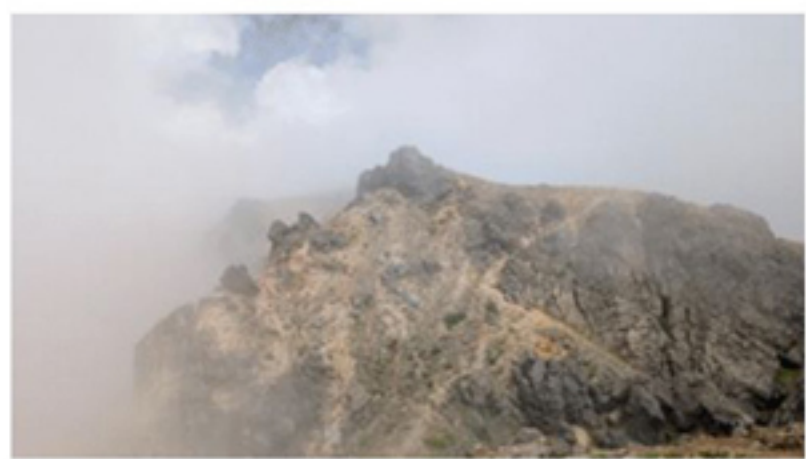
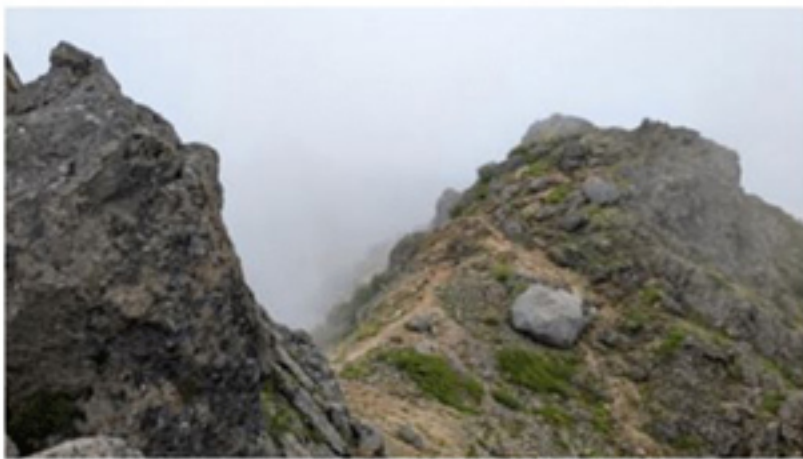
右手の岩稜を越えるらしい（下左）。進んで行くと左手下方にお鉢（中央火口湖）が見えてきた（下右）。ガスが出てきた。



いよいよ岩稜に取り掛かる（次頁上左）。中央付近にほぼ垂直のロープが下がっている（次頁上右）。

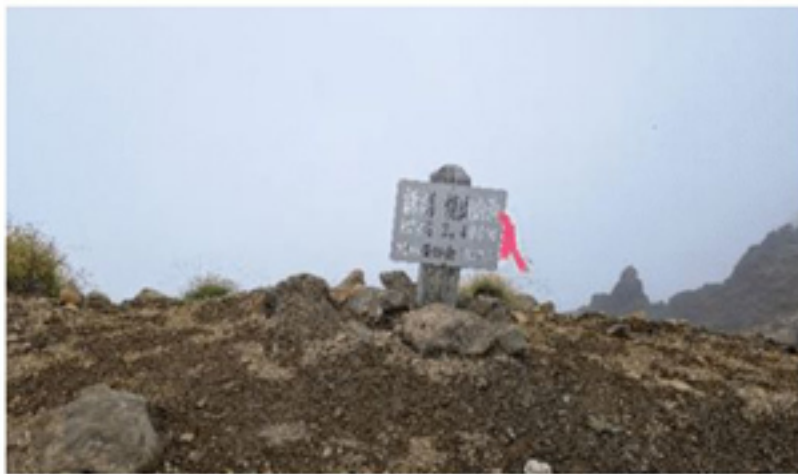


登り切ったらまだ先があった（2段目左、右）。



13：30 濃霧の山頂に立つ（3段目左、右）。

焼山林道第二ゲート出発から 8 時間 30 分。日本三百名山新潟焼山登頂。



山頂には誰もいない。先行した 5～6 人の若者はどうしたのだろうと考えた。



ガスが濃く、眺望は得られない。三角点にもタッチする（下）。

30 分休憩しパンと水でエネルギーを補充し、14 時下山にかかる。

往路を戻る。ロープの所では下りの方が危ない（上、上から下を見下ろす）。



無事降りきって、ホッとした瞬間、後ろから声をかけられた。山頂には誰もいなかったのどこから人が現われたのだろうと不思議に思い振り返ろうとした瞬間バランスを崩し前のめりに転倒してしまった。

大きな割と平らな石の上に、だった。

瞬間何が起きたか分からなかった。起き上がって身体を確認した。手袋は切れていなかったが左手の掌から2箇所出血していた、切り傷だ。手袋のおかげで砂などは入っていなかったが念のためお茶で傷口を洗い流す。上に羽織っていたカッパの左ポケットに携帯を入れていたが、ポケットが破れて携帯のカバーも破れていたが本体は大丈夫だった。打ち身は後に出てくるがその時はそのほかに痛みはなかった。左のストックは収納する。

以降は、ざれたところでは特に慎重に、樹林に入ってから右のストックを使って慎重に下る。地獄谷と大谷はゆっくり慌てずに渉る。写真は撮らないで足元に集中する。

18:40 避難用シェルターのある林道（登山道入口）に着く。山頂から4時間以上かかった。片手を使わないのはバランス的に全身の動きに微妙に影響するのだろう。まあ、明るいうちに林道まで降りることができたので、よし、とするしかない。ホッとする。

舗装や未舗装の林道を歩く。18:45 西の空の夕暮れがきれいだったのでスマホを取り出し撮影する。新潟焼山登山最後の記念写真だ。



この後1時間歩き 19:48。第二ゲート、車着。

すっかり暗くなったが林道の形は分かったので、ヘッドランプは使わないで済ませた。

朝の5:05 スタートから約15時間の山行を終える。

日本三百名山、残りは北海道狩場山(○1520m)のみ。クマ対策、できる限りのことをして挑みたい。

片手の掌が若干不自由なだけで、ヒトの行動・思考は制限されることを実感する。車中泊も面倒になり、コンビニでおにぎりを買っただけで能生ICから高速に入り、ゆっくりと車を走らせ午前2時半帰宅。入浴しビールを飲んで就寝。長い一日だった。

2025年9月 NO142 アンチ・エイジング 山旅遊人

狩場山登頂、日本三百名山踏破(速報)

5年前に登ったが、山頂近くでクマを見かけたため引き返した。今回は再挑戦。三百名山最後の山に妻と二人で出かけた。

8月22日新潟港12:00発、小樽港23日4:30着。3時間ほど移動し島牧村の登山口に着くが雨で登山を断念。翌24日好天に恵まれ狩場山登頂。日本三百名山踏破を達成することができた。詳細は次号。横断幕の日付は8.23となっている。



